

「令和の知財」に寄せて

巻・頭・言

特許庁技術懇話会 副代表委員／編集委員長 西村 亜希子

本年度特技懇副代表委員兼会誌「特技懇」編集委員長の西村 亜希子と申します。現在、事務局である常任委員会と、会誌「特技懇」の編集委員会という2つの委員会の活動に携わり、日々意識せずとも特技懇を通じて様々な親睦と研さんの機会を得ていたということを改めて知り、そのお返しができるようにとの思いであります。

会誌「特技懇」と私の出会いは、入庁前に数冊の会誌「特技懇」をいただいたことに遡ります。特許庁の取組を始めとした知財を巡る様々なトピックについて勉強し、特許庁の一員となる心構えを持つ上で非常に役に立つとの思いで、当時の採用担当の方は会誌「特技懇」をくださったのだらうと思います。

そのような思い出のある会誌「特技懇」の編集に携わることとなり、過去の会誌「特技懇」を改めて読み直しました。過去の特集記事・寄稿を振り返ってみると、その時々的重要なトピックがタイムリーに取り上げられており、その時代の空気まで感じられます（なお、会誌「特技懇」は、「特技懇会員サイト」にも掲載されており¹⁾、過去の記事の多くをご覧いただけます。「この時期に、この方が、この記事を」という発見もあり、ぜひご覧いただければと存じます。）。本年度も読者の皆様の声に真摯に耳を傾け、注目されている知財関連トピックをタイムリーにお伝えることも意識しつつ、皆様の役に立つ会誌「特技懇」を目指す所存です。

さて、本年度の編集委員会が企画した第1号となる本号(294号)の特集は「令和の知財」と「2019年度特技懇懇親会開催」です。

「令和の知財」と言っても、まだ令和はスタートし

たばかりです。前号(293号)の特集は「平成の知財史」でしたが、本号では、令和の新時代に向けて、特許庁が力を入れている取組のうちいくつかにつきまして執筆いただきました。令和が始まって数年たった後、特集「令和の知財」で取り上げられたトピックは歴史の1ページとなり、さらに時代が進むにつれ、令和の知財史に刻まれる出来事が次々に起きていくのだらうと思いを馳せつつ特集を組みました。

もう1つの特集「2019年度特技懇懇親会開催」は、特技懇の活動のうち、会員相互の親睦を深める最も大きなイベントの様子を、読者の皆様に当日の賑やかな雰囲気や写真も交えつつ、ご紹介いたします。

最後に、編集委員会についてご紹介します。昼休みに開催される編集会議では、7名のメンバーが、主どのような記事構成とするかを検討しております。記事構成が決まった後、庁内外の有識者に記事の執筆を依頼し、校正作業にも携わります。未経験のことも多いのですが、審査官になって間もない編集委員も積極的に記事の提案をしてくれており、また、先日は、テレワークの編集委員がWeb会議で参加してくれるなど、新たな取組も行いました。

本号の執筆者の皆様には、貴重な時間を割いて会員に有益な知識や経験を共有してくださったことを厚く御礼申し上げます。

また、読者の皆様に執筆を依頼することもあるかと存じますが、ご協力賜りますよう、本年度の編集委員会をどうぞよろしくお願い申し上げます。

1) https://tokugikon.smartcore.jp/tokugikon_shi
会員専用サイトからは最新号も閲覧可能